



第11日

▶準決勝

健大高崎	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
大阪桐蔭	0	1	0	0	0	0	0	2	X	3

健大

熱闘 胸張れ

竹内8回同点弾



健大高崎—大阪桐蔭 好投する先発の三木=甲子園

三木が力投

【甲子園—本社取材班】
県勢57年ぶりの決勝進出ならず。第84回選抜高校野球大会第11日は2日、兵庫県西宮市の甲子園球場で準決勝を行った。本県の健大高崎が第1試合で大阪桐蔭(大阪)と対戦、1—3で敗れ県勢として第27回大会(1955年)の桐生以来、57年ぶりの決勝進出はならなかった。

先制を許した健大高崎は八回無死、竹内司の左越えソロ本塁打で同点としたが、その裏2本の本塁打で突き放された。

健大高崎は初回、長坂拳弥の左前打、二回に神戸和貴の中前打、三回に中山奎太の右前打、四回には神戸、小林良太郎の連続右前打と四回まで毎回安打。序盤で好機をつくったが、大阪桐蔭のエース藤浪晋太郎の150キロを超える直球と変化球に的を絞れず、得点に結び付かなかった。

健大高崎のエース三木敬太は二回に1点を失い、八回には2本塁打を浴びたが、最後まで粘り強いピッチングを見せた。